

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 貫 小 学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

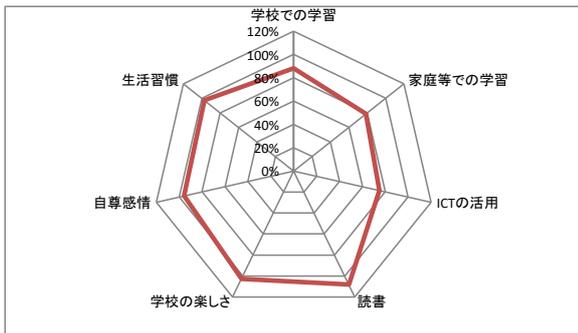
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

| 本年度の結果 | 国語 | | 算数 | | 理科 | |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 8.9 | 64 | 9.8 | 61 | 10.4 | 61 |
| 全国 | 9.2 | 66 | 10.1 | 63 | 10.8 | 63 |

(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|----|-------------|---|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 全体的な平均正答率は、全国平均、本県平均、本市平均より下回っている。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」の問題は、無回答がなく、平均正答率も全国平均、本県平均を上回った。 | |
| | 努力が必要な問題 | 「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」の問題は、平均正答率が全国平均、本県平均を下回った。また、「漢字を文の中で正しく使う」の問題も、平均正答率が全国平均、本県平均を下回った。 | |
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | 全体的な平均正答率は、全国平均、本県平均、本市平均より下回っている。また、記述式の問題における無回答率が高くなっている。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 「数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」「正三角形の性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる」の問題は、平均正答率が全国平均、本県平均を上回った。 | |
| | 努力が必要な問題 | 「二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる」「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ポイント数の求め方と答えを記述できる」の問題は、平均正答率が全国平均、本県平均を下回った。 | |
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | 全体的な平均正答率は、全国平均、本県平均、本市平均より下回っている。また、短答式、記述式の問題における無回答率が高くなっている。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 「提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」「観察などで得た結果を、他の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」の問題の平均正答率は、全国平均、本県平均を上回った。 | |
| | 努力が必要な問題 | 「器具の名称を書く」「自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」の問題は、無回答率が高く、平均正答率も全国平均、本県平均を下回った。 | |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析 | |
|------------|---|
| ○ | 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答している児童の割合が、昨年に続き全国平均、本県平均を上回っている。高い規範意識と人権感覚を養うことができています。 |
| ○ | 「学校の授業時間以外に、1日当たり平日は1時間以上、土曜日や日曜日など休日に2時間以上勉強する」と答えた児童の割合が、昨年に続き全国平均、本県平均を下回っている。学校で作成した家庭学習スタンダードを積極的に活用し、自主学習の習慣が定着するようにする。 |
| ○ | 「5年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用した」と答えた児童の割合が低かった。 |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 国語科の漢字、算数科の計算、理科の実験器具の名称を答える等の基礎的な学習は、前学年までの復習を定期的に行う。
- 「授業におけるICTの効果的な活用」を今後も一層推進する。また、有効なドリルアプリを積極的に活用するようにする。
- 書く活動において思考内容を焦点化・可視化するシートなどで活用する。
- 考えの広がりや深まりを自覚できるよう、話し合いの後にノートなどで「考えの再構築」する時間を設定する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学校で作成した家庭学習スタンダードを積極的に活用し、児童の自主学習の習慣が定着するようにする。
- 学校、学級、学校通信やホームページ、懇談会を通じて、本校の取組や課題を保護者に周知し、協力を得るようにする。
- 家庭学習に適したドリルアプリを保護者に紹介し、積極的な活用を促す。